

氏 名：塩見 卓也
学 位 の 種 類：博士(感染制御学)
学 位 記 番 号：博感制第 21 号
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目：閉経前女性看護師を対象とした月経周期に伴う体調変化と大豆イソフラボン代謝産物(エクオール)との関係に関する調査
研究指導教員：木村 哲
論文審査委員：(主査)松本 純夫 (副査)木村 哲
(委員)大久保 憲

論文審査結果の要旨

塩見卓也氏の博士論文は 3 名の審査委員によって、書面による審査及び口頭試問により厳正に審査された。

就労女性にとって月経前症候群と総称される精神身体症状は労働の妨げになっている。一方、大豆イソフラボンはエストロゲン作用や抗エストロゲン作用を示し、とくにその腸内細菌の活性による大豆イソフラボンの代謝産物であるエクオールの産生能の有無が健康状態に関連するとされるが、交代制勤務につく女性の腸内細菌を検討した報告は少ない。急性期病院である国立病院機構東京医療センターの閉経前女性職員から希望者を募ったところ 58 名の応募があった。1 回目の月経開始時から 4 回目の月経開始前迄の 3 性周期の期間で、志願者背景調査、月経随伴症状に関する調査、身体計測、尿検査、血液検査、味覚検査、食事調査、腸内細菌叢調査を検査項目とした。検査項目すべてを満たした 20 名の女性看護師を解析対象とした。月経随伴症状の増加率は、月経後から月経前は月経中に比べ「水分貯留」、「否定的感情」、「制御」、「食べ物の好み」が高い傾向にあった。身体測定の結果をエクオール産生者と非産生者と比較すると、エクオール産生者が細胞内液($P=0.013$)、たんぱく質量($P=0.024$)、骨量($P=0.005$)、体水分量($P=0.020$)、筋肉量($P=0.022$)、除脂肪量($P=0.018$)で有意に高かった。一方、エクオール産生者が収縮期血圧($P=0.001$)、拡張期血圧($P=0.0001$)がともに有意に低かった。腸内細菌叢の酪酸産生菌割合や多様性についてはエクオール産生者の方がエクオール非産生者よりも有意に高かった($P=0.048$)。

エクオール産生者が細胞内液、体水分量が高いにも関わらず血圧が低い結果は新しい知見であり独創性があることから「博士論文として認定する」。

令和 3 年 2 月 16 日

論文審査委員 (主査) 松本 純夫